

京都芸術劇場「春秋座」 狂言特別公演
国立能楽堂委嘱作品



梅原
横尾
茂山千之丞
忠則
猛
演出
美術・装束

スーパー狂言 上京ワークハウス20周年記念企画

王様と恐竜

平成15年12月23日(祝)

午後2時30分開演(2時開場)

午後4時30分終演予定期刻

京都芸術劇場「春秋座」(京都造形芸術大学内)

入場料金 A 5000円 B 4000円
(当日券 5500円) (当日券 4500円)

チケット 上京ワークハウス 075(451)3004

お問い合わせ先 京都芸術劇場企画運営室 075(791)8240

●同時開催「仲間の写真展」劇場ロビーにて 1時30分より

■主催 上京ワークハウス20周年記念 スーパー狂言「王様と恐竜」を観る会(代表: 渡邉隆夫 西陣織工業組合理事長)
■共催 京都造形芸術大学
■協力 国立能楽堂
■後援 京都市 京都府社会福祉協議会 京都市社会福祉協議会 上京区社会福祉協議会
京都新聞社会福祉事業団 京都授産振興センター



交通案内

- JR / 近鉄 / 京都駅・市バス5系統岩倉行き(京都造形芸大前)下車
- 阪急 / 河原町・市バス5系統岩倉行き(京都造形芸大前)下車
- 市バス3系統毎上終町行き(京都造形芸大前)下車
- 京阪 / 三条駅・市バス5系統岩倉行き(京都造形芸大前)下車
- 地下鉄 / 北大路駅・市バス204系統循環(京都造形芸大前)下車

*劇場には駐車場がありません。車での来場はご遠慮ください。

新世紀の幕が開き二年、希望に満ち夢のよくな二十世紀という未来を想像していましたが、果たして今見る姿はいかがなものでしょうか。現在の風刺でもあり未来へのメッセージである梅原猛スーパー狂言。「ムツゴロウ」では「自然環境」。「クローア人間ナマシマ」では「科学技術」そして三部作完結編の今回は「戦争」というテーマがターゲットです。太古の昔から生きとし生けるものたちは、その必要から他の生き物と争い、その命を糧に生き続けてきました。人間は何のために争い、生き続けてきたのか。

ここ太陽の国では、気は弱いが独裁者のトツトラー王の支配が続いています。なんでも一番が好きで、世界一大きく強く偉く神に近いかもと自信しているどんでもない王様です。しかしオンリヨウの国だけがなかなか靡いてくれません。大のお友達のカネ君、軍隊君、水爆君を招いての作戦会議に大商人モクスケ、なぜかカラスも飛び入りし戦争の方向に話が進みます。そして戦争には不可欠な正義君もカネの力と水爆の威力でナントか味方に付けることが出来ました。

一ヶ月後、準備の整ったトツトラー王の手には三つのボタンの付いた箱が持たれています。第一のボタンは恐ろしい水爆、二つ目は世界制覇の情報を全世界に発信するボタン、そして第三のボタンは特別注文の糞尿！？？？のボタン……。トツトラー王がまさに水爆のボタンに指をかけたとき、恐竜トツトラーザウルスが出現します。

トツトラーザウルスの語る世にも恐ろしい恐竜滅亡の真実。

それは奢り高ぶる人類への警告でもあり、あまりの恐ろしさにトツトラー王の出した決断は……。

梅原猛、奇才・茂山千之丞、鬼才・横尾忠則がガッチャリ手を組み、風刺だけなく人間の本質を深くとらえるスーパー狂言！笑いの世界のパワーを大爆発させる問題作です。

あわせて「維盛」を上演します。



帆足 正規／作
狂言 「維盛」
茂山千之丞／演出

茶店の主
平 維盛

笛

茂山あきら

国立能楽堂委嘱作品
梅原 猛／作
横尾 忠則／美術・装束

茂山千之丞／演出
太陽の國の王トツトラー

スーパー狂言
王様と恐竜

太陽の國の王トツトラー

茂山千作
大臣
カネ
武器
軍艦
飛行機
水爆
大商人モクスケ
カラス
正義

トツトラー王の王妃
トツトラー王の娘①
トツトラー王の娘②
トツトラー王の娘③
トツトラーザウルス
インター・ナショナル
共同通信社の記者

茂山千三郎
宗彦
吉阪帆足
島田上
井龜井吉帆足
増田浩紀
洋海敬介
廣忠一郎
正規司

茂山千五郎
逸平
茂山千之丞
茂彦
正邦
正美

茂山千三郎
正邦
正美

茂山千之丞
正邦
正美

茂山千之丞
正邦
正美

茂山千之丞
正邦
正美

茂山千之丞
正邦
正美

終演予定

午後4時30分

上京ワークハウスからの発信

あたりまえの暮らし そして 平和

上京ワークハウスは1983年11月に開所した、知的障害のある人たちの作業所です。1人の青年と1人の職員で始まった作業所は、20年を経て26人の利用者の皆さんのが生き生きと働き活動する場になりました。

さて、この度茂山ご一門の皆様を始め、多くの皆様のご協力により、スーパー狂言「王様と恐竜」を上演させていただくことになりました。21世紀は平和の世紀にと世界の人々が願っていたにもかかわらず、イラク戦争が始まり、多くの人たちが犠牲になりました。「戦争はダメ

です。」と真剣に訴える利用者の皆さん。地域であたりまえの暮らしがしたいという利用者の皆さんのが願いは、平和であってこそ実現できるものです。

昨年社会福祉法人の許可を受けグループホームを運営できるようになった私どもは、この度の20周年記念企画を契機として、グループホームへのご理解とご支援をひろげていたとき、障害のある人たちがあたりまえの暮らしを築く第一歩にしたいと考えております。

どうぞ皆さまの大きなご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。



きょうりゅう